

関西大学文学部在任中の思い出

著者	河野 通博
雑誌名	史泉
巻	100
ページ	9-9
発行年	2005-01-31
URL	http://hdl.handle.net/10112/00024931

関西大学文学部在任中の思い出

河野 通博

関西大学文学部にお世話になった時代の思い出を少し申し上げてみたいと思います。一九七八年三月二十八日だったと思いますが、発令直前関西大学を訪れた私は正門から文学部に登る坂道で折から今を盛りと咲き誇る満開の桜並木に迎えられて心からほっとしたことを印象深く記憶しています。そして史学科の先生方に挨拶してみれば学生時代からの同期生だった有坂さんをはじめ横田先輩、藤本、秋山、富沢、藤善の諸氏など以前から存じ上げている人々が多く、一緒に着任した津田秀夫さんも至って気さくな人柄の上に住まいもすぐ近くだったのでフランクに交流できました。

地理の先生たちは前任者の織田先生はもとより藪内先生以下熟知の人ばかりで後から着任された人とも実に仲良く教室運営ができました。そんななかで一九七八、七九の両年はフィリピン・パナイ島の漁村調査に従事しましたが一九八〇年横田先生に誘っていただいて中国のシルクロード旅行のお供をしました。蘭州・敦煌・ウルムチ・トルファン・酒泉等を歴訪し地理的にもたいへん多くのことを学び取りました。そこで翌年の一九八一年夏織田先生に顧問になっていただいて人文地理学者訪中団を作りシルクロードを再度訪問しました。この訪問は日本の地理学者に歓迎されただけでなく、その帰途西安と上海で中国の地理学者と連絡が取れたことが一つのきっかけになって、日本

に日中地理学会議が結成され、やがて中国地理学会と交流のきっかけになりました。私もその連絡係としてほぼ毎年中国を訪れ各地の見学ができたことは大きな成果でした。また北京大学の魏心鎮教授が関西大学文学部地理学教室を留学先に選んだ背景にもこのような事情があったのでした。魏先生の研究ぶりは真剣そのもの、余人の追隨を許さない模範的なすばらしさでした。私も中国で収集した資料を使って研究を進めることができました。特に経済政治研究所でのエネルギー問題についての共同研究で中国の解放後のエネルギーの開発状況について一定の研究成果を上げることができました。一九九〇年中国での自動車事故で負傷後、毎週の講義に橋本先生に自宅から大学まで御車で送迎していただいたことも今も有難く存じています。学生諸君との交流はやはり卒論作成の相談に乗った思い出が印象的です。最初は一部の諸君の卒論作成にも関係していましたが定年間際の頃になると専ら二部の諸君の卒論作成の相談に乗りました。いずれ劣らぬ個性豊かな人々の考え付いたテーマだけに「梅田貨物駅跡地の再開発構想」や「大阪市の下水道」「古代サヌカイトの流通範囲」「戦時下の地下工場建設のための強制労働問題」などいずれ劣らぬ異色の論文が勢ぞろいしていて、私にとっても良い勉強になりました。もう一部の諸君の卒論と大学院生の研究には触れる余裕がありませんが、私の最後のご奉公の場であった関西大学は私に多くの良い思い出を残してくれました。

(地理学)